

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第2回）
開催日時	令和4年1月13日（木）午前10時15分から午後1時55分
開催場所	柳沢中学校(会議室)、保谷第二小学校(見学)
出席者	(委員) 高野会長、鈴木副会長、新出委員、辻委員、伊藤委員、小貫委員、湯澤委員、竹之内委員、依田委員、高橋委員、門馬委員 (欠席) 齋藤委員、渡辺委員、根本委員、石井委員、菊地委員 (事務局) 工藤保健給食係長、近藤、石部
議題等	<議題> 1 親子給食の概要説明 2 牛乳配膳室及び小学校調理場の見学 3 中学校への配送状況の見学 4 中学校給食の試食及び喫食状況の見学 5 本日の感想等 6 その他
会議資料の名称	1 本日のタイムスケジュール 2 柳沢中学校校舎平面図 3 柳沢中学校給食だより及び1月の献立 4 保谷第二小学校1月の献立表
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>委員定数16名、出席委員11名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認</p> <p>議題1 親子給食の概要説明</p> <p>○会長 説明を受ける。</p> <p>○事務局 ※ 以下概要説明の要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、配膳は従前の教室内から廊下で行う事で密を防いでいる様子、全員が同じ方向を向いて喫食する「黙食」の様子、を写真により確認。 ・西東京市の親子給食は、小学校から中学校への配送で、センター方式とは異なり調理校と受入校の1対1の関係である。 ・柳沢中では、保谷二小調理の給食をトラックで配送を受けている。 ・通常の給食は、配缶後食器とともに各教室に渡されるが、親子給食の中学校分は2クラス分の食缶と食器を1コンテナに詰めて配送する。 ・調理校からの配送車の出発時間は、親子校間の距離に合わせて決まるため各校異なるが、どこも中学分を先に調理して出発させ、その後小学校分を調理している。 ・配送は、調理とは別契約の業者が請け負っており、小学校から中学校への給食の輸送、中学に到着後、各クラスにコンテナを配置するまでを行い、喫食後はその逆でクラスからコンテナを回収して小学校にコンテナを戻すための運搬を行っている。 ・コンテナには鍵が掛かっており、給食時間前に教員が開錠、クラス毎に配膳して喫食し、昼休み前にコンテナに食缶と食器を生徒が戻した後、5時間目の授業の開始とともに配送業者が回収に回っている。 ・調理校では、調理とは逆に先に小学校の食缶と食器を洗浄・消毒し、次に中学分の食缶と食器をコンテナごと受け取り、洗浄・消毒を行う。 	

- ・親子校の調理開始は、献立によっては早朝6時頃に始まり、洗浄終了は午後3時頃までの作業が毎日行われている。
- ・中学校の給食の内、牛乳のみは直接中学が発注し、納品を受けているため、配膳中に牛乳当番が牛乳配膳室に取りに行くことになっている。

○会長 質疑はあるか。

(特になし)

○会長 見学から給食の試食等までは、進行表に基づき行うので、準備してほしい。

議題2 牛乳配膳室及び小学校調理場の見学

議題3 中学校への配送状況の見学

議題4 中学校給食の試食及び喫食状況の見学

※ それぞれの見学場所等で柳沢中、保谷二小の栄養士から説明を受け、見学・試食・生徒の喫食状況等を確認する。

議題5 本日の感想等

○会長 本日の感想等を述べてほしい。

○委員 調理場での勤務経験があるので、親子で2度作ることの大変さを感じ取れた。分刻みでの調理にもかかわらず、衛生面と安全を確保し、それを毎日継続していることに感謝したい。食べた給食は美味しく、しっかりと出汁を取って調理してくれていることが良く理解できた。娘がまだ通っているため、給食は本当にありがたいと思っている。献立も毎日異なり、種類豊富である。中学でも単独調理校がスタートしたようなので、出来れば親子調理ではない給食が進行してほしい。

○委員 貴重な体験に感謝したい。初めて給食を食べたが、子供は違う学校の給食を食べており、こちらも美味しい給食なのだろうと感じた。スープの出汁が効いているので、本当に美味しい。親子給食のための可能な限りのことは行っているのに、温かいものを食べることができ、ありがたいと思った。私は、食べる時間は短いと感じた。美味しい食事を味わって食べるのには短いと思う。食べきれない量でもなく、むしろ減らしてもらっていたにも関わらず、時間が足りなかった。教室での生徒の黙食を見ていると、やはり異様な感じがした。隣同士と、これ美味しいね、と言えることが普通だと思う。先生も生徒と同じ黒板の方を向いて食べていることを不思議に思った。それであれば、先生が一番後ろで食べるか、距離を置いて向き合った方が良いのではないかと思った。

○委員 全てが初めての経験と見学のため、新鮮だった。前回の会議で親子給食の説明を受けてピンと来なかったことが、今日見学して理解が深まった。システムを見て、メリットとデメリットも確認することができ、今日の機会に感謝する。私も、食べる時間が短いと思った。食べるのは遅い方ではないと思うが、それでも最後に少し焦ったので、短いだろうと思う。子供間で個人差があると思うので、食べ残す子が出るのではないかと心配になった。授業時間を詰めることは難しいだろうが、工夫は可能なのではないか。食べ残しも減ると思う。給食は美味しく、野菜も多く使われていて栄養価も十分だと感じた。また、放送で農家の方の話も聞いたので、食べ物に感謝出来たことは良かった。

○委員 午前中の短い時間の中で、この給食を届けるということに多くの人の手が掛か

っていることを実感できた。また、教室では担任の先生の喫食のために副担任の先生が配膳に回るという連携が見られ、貴重な体験であったと思う。中学生の米飯の規定量が250グラムということは、パックご飯より多く食べなければならないことになる。我が家の娘は、パックの半分でも足りるということなので、800カロリーが成長期の生徒には必要なのかもしれないが、それが実感できた。

- 委員 親子給食についてわからないことばかりだったものが、一日で理解が深まった。私は、黙食については厳しいなと思っていて、この時勢に仕方がない部分があると思うが、不登校になってしまった生徒の中には、食べている最中におなかが鳴ってしまう体質の子もいるようだ。昼食時放送の音楽もかけてくれているため、工夫は感じられた。別の機会に学校を訪ねたときに、お昼に結構大きな音で音楽が流されており不思議に思っていたが、黙食対策であったことも勉強できた。
- 委員 西東京市の給食は過去にも数回食べており、この市の給食はいつも本当においしいと感じている。学校給食のバランスが取れているのは当たり前のことにはなるが、レシピ設定から調理のコントロールがきちんと取れている証拠である。本当に凄いことであると、同業の者として感じている。特に、食塩をこれだけ制約した上での、美味しさを出す工夫が素晴らしいと思っている。昨年12月に日本で栄養サミットが開催され、世界中で減塩がテーマになっている。それには、幼少期からこうした味に慣れるということが大切だと改めて思った。
- 委員 日頃生徒の給食に関わっているが、安心安全、徹底した栄養管理、その上での子供への食育や食の広がり、世界的にも給食の教育的な効果が大きいことを感じている。委員の皆様から喫食時間の確保の話が出ているが、正直短いと思うこともあるが、中学生は自分たちで工夫をして食べる時間を確保している。今日も、クラスの中では、時間差で食べ始めている生徒もいたと思う。準備時間を短くして、設定時間よりも少しでも多く食べる時間に回す工夫、例えば12時45分から食べ始めとの時程であっても、時間前でも食べ始めて良いという指導を行う。授業時間を後ろにずらすことはできないけれども、お昼休みも十分与えたいし、ということでの工夫が必要だと思う。この時程に関しては、市内のどの中学でもほぼ同じだと思う。
- 委員 私は親子校の栄養士だが、なかなか違う学校の給食を食べることができないので、久しぶりに美味しく食べられた。普段は児童には集中して食べるよう指導しながらも、仕事に追われながら食べているため、今日はゆっくりと味わうことができた。しかし、子供のことを考えれば、時間の確保は大切なことである。よく噛んで食べるよう指導しながらも、時間が短いという矛盾を感じることもある。時間の制約はあるので、献立でカバーできる部分は工夫していきたい。
- 委員 勤務校が中学の自校式になったため、今年の1学期だけ小学校からの給食を受けて食べた。他校の様子を見ることはできないので、良い勉強になった。給食時間のことだが、昨年度までは小学校の栄養士であったため、小学校の45分が中学では30分になり、かなり短いと思っていたが、実際には中学生の準備は小学生よりかなり手際が良く、喫食時間はそれほど違いがないという印象だ。喫食の様子だが、食べるスピードが、中学生だともものすごく早い生徒もおり、むしろ時間が余ってしまっている生徒もいる。私自身が食べるのが遅いので、今日もぎりぎりであり、おしゃべりしていたらきっと間に合わなくなるのだろうと思った。黙食についてだが、やはり全くおしゃべり無しというのは不自然だとは私も思うが、この時間の中で給食を取ることを考えると、みんなでわいわい話しながら食べるほどの余裕もないのだろうと思う。コロナになってしまい、この時間をどのように過ごしたら良いのか、改めて考える機会

になっている。時間がない中で、盛り付けに時間がかからないように献立を工夫することもしている。なるべく盛り付け易く、準備に時間が掛からないようなメニュー構成を、各校で子供の様子を見ながら栄養士が準備している。

○副会長 21年の勤務経験では全て自校式の給食を食べてきたので、親子方式は初めて見た。調理場では安全のためにすべきことが時間どおりに行われ、子供たちには何事もなく給食が届くということ、当たり前前が何事もなく行われていることに感心した。安全で、安心で、美味しい食事が提供される給食という日本のシステムが、いかに凄いことであると再認識させられた。黙食については、暫くは続くのだろうと思っている。小学生では既に半数の学年で、入学以来黙食が当たり前になってしまった。時代とともに喫食の様子も変わるのだろうと思うが、コロナが一日も早く収まることを願うばかりだ。給食は教材にもなる時間であり、食材の生産者の努力、栄養士の献立の工夫や調理員の努力、親子給食ならば配送員の努力、それが全部重なって目の前の給食になるという、体験に基づく学びの場である。私の学校でも、食育に力を注いでいきたいので、今日は勉強になり感謝したい。

○会長 本日の給食の作業を見て感じたことは、人が協力すれば、全てのことが上手く回っていくということだった。実は10年ほど前に4年間保谷第二小で勤務していたが、丁度その時に柳沢中との親子給食がスタートし、最初は課題克服ばかりであったと思い出した。当時の調理場は、中学校の食事を出したら力が抜けてしまう、というほど忙しく感じたが、今日見ていると、全くスムーズに動いていた。校長の私は給食室に入れる訳ではなかったけれども、コンテナを乗せる台の僅か1センチの段差をどうしていくのか。そのためのスロープの角度をどうしていけば良いのか、ということを試行錯誤したことを思い出したが、それも今日見ると全てスムーズに動いていた。隣の柳沢中には当時も何度も訪れて親子給食の様子を確認したが、今日見ていると、生徒の食べる様子は今日も大変上手だと思う。生徒は給食の流れに慣れており、親子給食が浸透していることが理解できた。喫食中のビデオ中継の農場主だが、芝久保小で副校長時代に、あの農園で小松菜の収穫体験で世話になった人であり、仲間でもあり、人の力を感じ取ることができた。教育委員会のバックアップもありこのように進んでいるのだと感じた。校長の検食は11時40分頃で児童よりかなり早く食べるが多く、今日のような普通の昼食時間に給食を取ることはなかった。多くの人の力に感心させられる半日であったことを感謝したい。

議題6 その他

○会長 その他に意見はあるか。

次回の予定を報告してほしい。

○事務局 次回は、5月頃に計画したいと思う。ひばり中が単独調理校になったことの検証を行いたい。詳細は別途通知する。

閉会

○会長 本日の会議を散会する。